



# 学校だより

平成31年3月25日

横浜市立高田中学校

3月号増刊(第30-13号) Ⅸ:591-4183 校長 福田 之男

## 第31回卒業証書授与式

3月11日(月)に第31回卒業証書授与式が行われました。昨年と同様に、今年も天候は低気圧の発達に伴い通学の時間帯は、雨に見舞われました。昨年は、体育館の雨漏りがあったため、職員で会場を整備しましたが、今年度は、会場には異常がなく、ほっとしました。学活の時間帯には、天候も回復し、西の空には、卒業生の門出を祝うかのように、大きく美しい虹が見られました。

式には高田町連合町内会長様をはじめ地域の皆様、高田小、高田東小から校長先生、光明幼稚園の園長先生、PTA役員の皆様など29名のご来賓にご列席を賜り、保護者の皆様、在校生全員で卒業生の門出を祝いました。

式は、厳かな雰囲気の中で、執り行われました。練習の時には、返事の声が小さかった証書授与でも、本番では、多くの生徒が大きな声で返事をし、立派な態度で証書を受け取りました。在校生代表の送辞や歌も、3年生の卒業を祝う気持ちがこもった素晴らしいものでした。3年生も、三年間の思いを込めた答辞や合唱など、「高田中の心」として最後まで頑張ったことが感じられる立派な態度でした。今年度も退場の場面では、卒業生から担任の先生にサプライズの感謝の呼びかけがあり、厳粛な中にも温かいものが感じられるすばらしい卒業式となりました。



### 《校長式辞》 抜粋

卒業生の皆さんに、校長として20世紀最大の理論物理学者といわれるアインシュタインのことばを贈ります。アインシュタインは次のようにいっています。

「過去から学び、今日のために生き、明日に希望を持つ。大切なのは、疑問を持つのをやめないことだ」

人は過去から様々なことを学びます。皆さんも中学校で歴史の学習をしました。過去の出来事を学ぶことによって、現在がより明確に見えてくることもあります。歴史を学ぶことだけではなく、自分自身を振り返ってみることにより、自分の現在をしっかりと認識することもできます。

「今日のために生きる」とは、過去から学んだことを生かして、今何に集中していったらよいのかをしっかりとつかんで、一日一日を大切にして生きていくことだと思います。

「明日に希望をもつ」ということは、どのように解釈することができるでしょうか。「希望」という言葉は、未来に対する期待と夢ということの意味だと思います。私たちが明日に希望をもつということは、その未来を信じているということです。

最後の「大切なのは、疑問をもつということをやめないことだ」とは、与えられた情報や知識を鵜呑みにして、「偉い先生がいうことだから」「みんながそう考えるから」「今まで前例がないから」というような考え方ではなく、複数の視点から注意深く、論理的に物事を分析し、自分の頭で考えるということです。

卒業生の皆さん、過去から学び、今日を精一杯生き、明日に希望をもって、自分の頭で物事を考え、歩んでください。そして、自分の夢を実現するよう努力してください。

これから、皆さんは自分で選んだ道を歩いていきます。その道は、楽しいことばかりではなく、困難なことにぶつかったり、様々なことで悩んだり、くじけそうになったりすることもあるかもしれません。また、失敗することもあるかと思えます。困難なことに出会ったり、悩んだりしたときには、「過去から学び、今日のために生き、明日に希望をもち」前進してください。

#### 《卒業生答辞》 抜粹 3年3組 清水 彰英さん

こうして振り返ると、いつも私たちは仲間の支えで乗り越えてきたように思い返されます。どんなに悲しくて、辛いことがあっても、青学年のみんなといると、心の底から安心できました。互いを認め合い、いつも助け合い、時に叱り合いながらともに成長してきた三年間。この三年間で学んだことは数え切れないほどあります。しかし、その中で最も価値のあるものは「仲間」だと思います。行事や受検などは、支え合うことなしには乗り越えられなかったと思います。そんな青学年のみんなが大好きで、この高田中学校が大好きで、これもまた一つの思い出になってしまうことをとても寂しく思います。みんなと過ごした長いようで短かった日々、一生心に残します。本当にありがとう。

～中略～

これからは、自分で選んだそれぞれの道へ歩いて行きます。それは決して楽な道のりだけではないと、多くの人が思っているはずですが。もし壁にぶつかったとしても、みんなと過ごした日々を糧に、前向きに乗り越えていこうと思います。例え歩く道が別れても、青学年はずっと仲間のままです。共に過ごした三年間に誇りをもち、胸を張って、私たちは明るい未来に向かってはばたきます。

#### 《在校生送辞》 抜粹 2年2組 松崎 夏星さん

卒業生の皆様、今まで、高田中学校の中心として私たちを支えてくださり、本当にありがとうございました。これからは私たちが高田中学校の「心」として支えていき、先輩方が受け継がれてきた思いをしっかりと次へつなげて行きます。

## 1 学年自然教室 「輝努愛楽」 ～相手を想い、未来へ繋げる～

インフルエンザの例年以上の流行による影響で、1カ月延期を決めた1年生の自然教室が、3月3日(日)～5日(火)長野県白樺湖ロイヤルスキー場で行われました。

初日は7時半集合、8時にバスは出発。高速道路を乗り継いで中央高速道路に入ると雪景色が見え始めると思っていたところ、長野県に到着しても雪が見当たらず、バスの中では「スキー出来るのかな？」という心配が広がっていく中、白樺湖ロイヤルスキー場はちゃんと雪景色で迎えてくれ、皆安堵しました。昼食をすませると、いよいよ講習スタートです。経験者も初心者もドキドキ、ワクワクしながら、時には悪戦苦闘しながら一生懸命に受講していました。少な目の雪でありましたが、皆が十分に楽しむことができました。夜は全体レクが行われ、有志によるコントでは笑い声がホールに響き渡り、ダンスでは手拍子や掛け声で大いに盛り上がりました。また全員参加の「ウインクキラー」「震源地」でも大盛り上がり、係がたくさんの時間をかけて準備してくれた全体レクは大成功に終わり、学年の絆の深さを感じることができました。

2日目は、前日の夜から続いた降雪のため、朝には全面白銀の世界に変わり、地元の方からも「今シーズン一番の積り方」と言われるコンディションで、午前・午後・夜(ナイター)の講習を行いました。夜の講習時には、吹雪で先が見えないような状態でしたが、皆めげることなく頑張っていました。ある意味で雪山の厳しさを味わうという貴重な体験ができたと思います。ナイターを終えた皆の顔からは疲れなどあまり見えず、満足した笑顔が自然と出ていました。

3日目になると、昨日から一転して晴天が広がり、雲一つない中、これまでの講習で身につけた技術で皆スイスイと上手に滑って、本当に気持ちよさそうでした。

3日間を通して、「食べる・寝る・滑る・ルールを守る」を実行し、緑学年全員が、努力し、楽しみ、自然を愛し、輝くという願いを込めたスローガン「輝努愛楽 ～相手を想い、未来へ繋げる～」を実践し、仲間と協力して活動できた自然教室であったと思います。この貴重な経験を今後にかき、卒業までの2年間、緑学年の仲間の絆として大切にしたいと思っています。

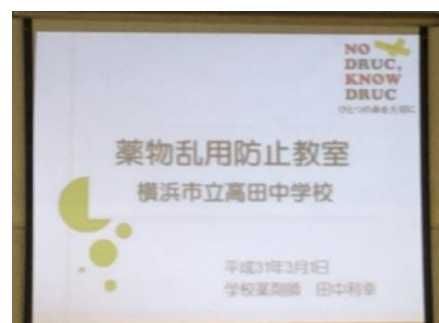


## 認知症サポーター養成講座・薬物乱用防止教室

3月1日(金)本校体育館にて、3年生の特別時間割の一環として、「認知症サポーター養成講座」と「薬物乱用防止教室」を実施しました。これから社会に出



る3年生に向けて、認知症サポーターキャラバン・メイトの皆様や学校薬剤師を講師として招き、講座を開きました。講座では、知識として、「認知症」という言葉を知っていたり、「覚せい剤などの薬物は危険」だと分かっている生徒に対して、認知症の方と街中で出会った時の対応を寸劇を通して学んだり、違法薬物による影響やリスクについてクイズ形式で学び、それぞれについて理解を深めました。受講している生徒たちは真剣に話に耳を傾け、これから社会に出るにあたっての心がまえをつくっているように見えました。



## 携帯安全教室

3月18日(月)の6校時に本校体育館で、1年生・2年生を対象に携帯安全教室を実施しました。今年度は、KDDI株式会社による「KDDIスマホ・ケータイ安全教室」を開催し、①ネットモラルやスマホなどを使用するときのルール作りの大切さ、②ネットを通してのコミュニケーションの難しさ、③ネットを利用することによって巻き込まれる事件、④適切にネットを利用しないことで違法行為になる可能性、について学びました。生徒にとって身近な事例を、動画を使いながら講演してくださったので、とても分かりやすく、どの生徒も自分事として考えるきっかけとなっているようでした。生徒にとっては、自ら考え想像力を働かせる機会となり、上手なインターネットの使い方について考えを深めることができたのではないかと思います。ご家庭でも、講演内容について話をしていただき、どうすれば安全に上手にインターネットを利用できるか保護者と子どもが一緒に考えるきっかけとしていただければ幸いです。



1年間のご愛読ありがとうございました。今年度も、保護者、地域の皆様には、大変お世話になりました。この学校だよりを通して、学校の様子を伝えてきたつもりですが、至らない部分も多々あったと思います。学校のホームページにも学校だよりの発行と同時にアップしています。ホームページ上の学校だよりは、カラー版になりますので、そちらもご覧いただけると幸いです。平成31年度も、中学校と保護者、地域を結ぶメディアとして発行していきたいと思っております。教職員一同、保護者の皆様、地域の皆様の中学校の教育活動に対するご理解とご協力に深く感謝しております。来年度もよろしくお願いいたします。